

平成5年度演習林年報

<https://doi.org/10.15017/18587>

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）。1993, 1994-12-20. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：



は し が き

1993年10月1日に九州大学農学部附属演習林は本部を福岡市東区箱崎の農学部キャンパスから粕屋郡篠栗町の粕屋演習林に移し、粕屋演習林は早良演習林と合体して福岡演習林となりました。

演習林の歴史は大学の基本財産林としての1912年の樺太、朝鮮両演習林の設置に始まります。1922年農学部林学科の発足にともない農学部附属演習林となり、本部が農学部キャンパス内に設置されました。

この数十年の間に日本の森林・林業とそれを取り巻く環境は大きく変貌しました。1950年代以降の日本経済の急速な発展時には森林はもっぱら木材生産の対象としての物質資源とみなされましたが、1980年代のバブル経済とその破綻はあらためて環境資源としての森林の重要性を一般社会に認識させることになりました。さらに世界的にみると酸性雨害、熱帯雨林の過伐などによる森林資源の衰退は著しいものがあります。このような状況は森林に関する教育・研究の重要性をますます高めていると言えます。

大学演習林は森林に関する教育・研究を行う大型野外実験・実習施設です。したがって演習林本部の組織も教育・研究のフィールドである森林により密着すべきだとして、粕屋演習林への移転構想が1970年代半ばに生まれました。以後紆余曲折がありましたがようやく実現しました。

ところで、九州大学では新しい理念に基づく新キャンパスの元岡地区移転が実現に向かって進んでおりますが、演習林は本部の篠栗地区移転という独自の歩みを取ることにしました。これにはフィールドに密着しているという教育・研究上のメリットと、大学キャンパスがさらに遠くなることから生ずるデメリットが予想されますが、演習林としては、そのメリットを積極的に活かし、この新しい器が森林科学の発信基地としてその機能を十分に発揮するよう、研究・教育組織としての研究部門の整備・充実に努めていきたいと思ひます。

平成6年8月

演習林長 汰 木 達 郎